



学校だより

いちいの木

学校教育目標

「ふるさと 富士山に 学ぶ子」

重点目標 「伸びを認め合う」

小山町立須走小学校

令和元年10月号

反応しよう

校長 青木元広

九月二六・二七日には五年生の自然教室、十月三・四日には六年生の修学旅行と大きな行事が続きました。

このような行事の一番のねらいは、宿泊を伴う集団行動を通して、子どもたちの協力性や自主性を高めることです。特に高学年になれば、須走小学校を背負って立つ代表となる学年です。自主性や協力性はぜひ育みたい力です。

それと同時に、私は子どもたちにも、「**反応する力**」を付けてほしいと願っていました。最近の子どもたちの傾向として、やや受け身的な部分が多く、自分から気持ちや考えを発信することが少ないと感じていたので。人から問われたときに、反応できない様子も時々見受けられます。これらの行事で反応できる子を目指したいと考えました。さて、子どもたちの様子はどうだったでしょう。

本番に強い五年生……自然教室にて

(国立中央青少年交流の家)

子どもたちにとって、小学校生活で初めての宿泊を伴う体験学習でした。この他に数々の行事があり、忙しい五年生でしたが、急ピッチで自然教室の準備も進めてきました。

当日は、自分たちで夕食のカレー作りをしたり、キャンドルサービスの出し物を演じたりして協力性が試されましたが、立派にやり遂げました。

中でも、交流の家の職員の方から褒めていただいたことは、子どもたちの返事や挨拶の音が素晴らしかったことです。反応がいいと、活動にめりはりができ、皆が元気になります。その成果が、出し物の盛り上がりで表れました。

本番に強い五年生の大きな底力を感じました。

これからも、前向きで一生懸命な五年生を期待していきます。



最高の思い出を作った六年生

日光への

修学旅行にて

早朝に集合した六年生に、「この修学旅行で、反応することを課題として頑張ろう」と話し、出発しました。

子どもたちにとって反応する相手はたくさんいます。バスガイドさん、お店やホテルの方々、訪問先での案内人など。

はじめは担任から、「どうですか?」と切り返されることもありましたが、次第に自分から反応しなければという気持ちが高まり、帰路のバスでは、自らの思いを清々と話す姿に変身していました。そして、一生に一度の忘れられない思い出を、笑顔と共に終えることができました。

反応する力は、日々の生活で培われます。ご家庭でも、子どもたちに意図的に反応させる投げ掛けをお願いします。



写真で見る9・10月

★9月20日「4年生社会科見学 エコパーク」



★9月26・27日「5年生自然教室」



★10月3日「3年生 社会科見学 スーパーマーケット」



★10月3・4日「6年生 修学旅行」



北駿音楽会間近！！

10月25日（金）、いよいよ3・4年生が北駿音楽会の舞台に立ちます。曲名は「明日はきっと」です。

当日は保護者の皆様が会場に入ることできませんので、10月26日（土）の町民文化祭、11月3日（日）の須走地区文化祭でその歌声をお聞きいただきたいと思ひます。

気づき、考え、実行する！

須走小学校は、JRC活動を推進する学校として活動しています。JRC活動の大きな柱が「気づき 考え 実行する」です。

秋になり、落ち葉の季節となりました。朝、校舎の前にもたくさんの葉が落ちています。すると、誰に言われるでもなく、自分から竹ぼうきを持ってきて、掃除を始めた人がいました。まさに「気づき 考え 実行している！！」と嬉しくなりました。

あらゆる場面で、「気づき 考え 実行する」人の輪が広がるといいなと思ひています。御家庭でも話をしていただけるとありがたいです。